

端野で唯一の劇場

「豊稔座」について(その2)

○経済不況と冷害時の豊稔座

昭和四(一九二九)年、ニューヨーク株式市場の大暴落に端を発して、世界経済恐慌が始まり、同五(一九三〇)年以降に、この経済恐慌が日本にも波及して、米価を始め農産物価額が大暴落し、農作物の豊作の年であっても「豊作飢饉」と言われ、深刻な経済不況に見舞われました。

このような中、端野村は、昭和七(一九三二)年、北海道庁の「経済更生計画町村」に指定され、同八(一九三三)年から一二(一九三七)年までの五カ年間に農畜産物の生産額を五割増加の計画を樹立し、農会をはじめ産業組合など村ぐるみで、この計画の実現を目指しました。

しかし、昭和九(一九三四)年、同一〇(一九三五)年と引き続いて冷害

凶作に見舞われましたが、村ぐるみの努力の結果、昭和一二年度において、計画目標事項の多くの事項で目標を達成するという偉業を成し遂げました。

この時期(昭和九年から昭和一二年)における豊稔座の興行については、実演興行では、浪曲以外の来演が少なくなり、活動写真(映画)の時代に変わってきました。

この活動写真は、映写幕(スクリーン)に映像が映し出されますが音声がなく、弁士と楽士が音声を補うもので、楽士は楽器をもって映像の雰囲気盛り上げ、そこに弁士が現れ、口調よろしく解説、説明をしました。また、弁士名を書いた赤い垂れ幕をスクリーンの左側に掲げていました。

この弁士や楽士は、野付牛の有楽座や津別のコトブキシネマの所属の方々が回ってきました。

なお、当時、所属は不明ですが、端野町二区出身で芸名を「西部宝州」という弁士もいたと、新端野町史に記されていますが、その方の仔細は不明です。

当時、フィルムは古くなるとよく切れ、観客や劇場主をイライラさせまし

たが、野付牛の有楽座から回ってくるフィルムは新しく、調子の良い映写がなされ、また、弁士、楽士ともに優れており、林長二郎(長谷川一夫)、市川右太衛門、田中絹代、川崎弘子といった人気俳優の多い松竹映画を回していたので、「有楽座なら」という信頼感があり、かつ、音楽のみ録音されたサウンド版トーキー映画や、オールトーキー(全発声)映画を初めて持ってきたのも有楽座であった、と豊稔座の思い出に記されています。

○公民館的役割も担った豊稔座

農村地帯の劇場は、各種団体の集会、各種選挙の演説会、青年団の弁論大会、演芸会、また、銃剣道大会などの会場として使用され、現在の公民館的役割も果たしていました。

○戦時下の豊稔座

昭和十二(一九三七)年七月、日中戦争が始まり同一三(一九三八)年の「国家総動員法」が施工されて以降、劇場への取締が強化されました。

興行のビラについては、警察署の許可と点検を受けなければならず、興行には、これまであまり顔を見せない警察官が、選挙演説や弁論大会には必ず臨席し、言論や思想の取締に当たりました。

また、映画は次第に娯乐的なものは排除され、国家総力戦への戦意高揚など国策に沿ったものが要求され、豊稔座にくる映画は時局ニーズが通常化し、劇映画、芝居、浪花節も戦争や仇討ものが多くなりました。

また、出征兵士の留守家族を招待した慰安演芸会なども豊稔座で開催されました。



端野村産業組合職員により開催された留守家族慰安演芸会（昭和一七年、豊稔座にて）

○戦後の豊稔座

終戦直後の映画は、国の検閲は廃止されましたが、占領軍（GHQ）による検閲があり、これまでと異なり戦争や仇討等に係るものは上映できなく、新しい映画の配給もなく、かつ芝居等の実演は地方巡演もままならず、北見の業者が戦前のフィルムなどを持ってきて上映したこともありましたが、観客は少なく、豊稔座の利用は村内の各種団体の集会等が多かったと言われています。

戦後、本格的に映画が上映され、芝居等の舞台を観られるようになったのは、昭和二三（一九四八）年以降でした。

特に劇団の公演が多く入り、月に三回もの公演を行った時期もありました。この理由は、当時、国内では極端な食糧不足に見舞われていましたが、農村地区への公演により容易に食糧を確保できるからとも言われています。

しかし、北見市内の各映画館が大型スクリーンを設置し、常設館となるにつけ、豊稔座での映画の上演が減少し

ていきました。また、昭和二五年頃から「映画ブーム」に入り、劇団の公演が減じ、加えて、昭和三〇年代後半からテレビの普及により各種興行も同じく減少していきました。

時代の変化に伴い、豊かな心を養い端野村民に健全な娯楽を享受させていただき、端野の文化、芸能活動の振興に大きな役割を担った豊稔座は、昭和四〇（一九六五）年廃業しました。

追記

豊稔座の経営者直江伊三男氏は、昭和二二（一九四七）年四月、戦後新しい地方自治法施工後の初の村会議員に当選、二期八年間、また、昭和二三（一九四八）年三月、端野村農民同盟が結成され初代の副委員長に就任し、端野村の振興発展にご尽力いただきました。

田中 誠